

新型インフルエンザと社会不安

勝田 吉彰^{1)*}

1) 近畿医療福祉大学 社会福祉学部 臨床福祉心理学科

Pandemic influenza and anxiety among society

Yoshiaki Katsuda^{1)*}

1) Department of Clinical Welfare Psychology

Faculty of Social Welfare

Kinki Health Welfare University

*Correspondence: katsuda@sw.kinwu.ac.jp, katsuda@tkk.att.ne.jp

要旨

現在、その発生が警告されている新型インフルエンザのパンデミックにおいては様々な心理社会的影響が考えられ、大きな社会不安の発生が予想される。筆者は2003年にSARS (severe acute respiratory syndrome) 流行に見舞われた北京にて在中国日本国大使館医務官として在勤し、現地日本人社会への対処にあたるかたわら、流行がおよぼす心理社会的影響を観察する機会にめぐまれた。本稿ではこの体験も交えながら、新型インフルエンザ流行において予想される心理社会的影響を論じ、あわせて、一般社会に対する情報提供の試みを紹介した。鳥取臨床科学 1(1), 236-239, 2008

Abstract

Pandemic influenza can be foreseen as causing a great social insecurity anxiety. The author worked as medical attaché of the Japanese embassy in Beijing during the severe acute respiratory syndrome (SARS) outbreak and observed psycho-social effects of the SARS outbreak among the society. With introducing this experience, here discuss psycho-social effects of pandemic influenza and showed some trials of informing society of information effectively. *Tottori J. Clin. Res.* 1(1), 236-239, 2008

Key Words: 新型インフルエンザパンデミック, SARS (severe acute respiratory syndrome), 社会不安, ブログによる情報提供; pandemic influenza, SARS, anxiety among society, blog

はじめに

筆者は外務省医務官としてスーダン・アフリカ・セネガル・中国の4カ国に計12年間にわたり在勤し、2006年に退官し現職に就いている。前職最後の任地北京では着任直後の2003年3月よりSARSの大流行に直面し、その職務として現地日本人社会の対処にあたる一方、流行の及ぼす心理社会的影響を報告

してきた¹⁾。

現在その発生が警告されている新型インフルエンザでもSARS同様の社会不安の発生が予想される。経験を交えて記した。

SARS 流行下で観察された心理社会的影響と教訓

未知の感染症に見舞われた中で人々は5段階の反